

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193700051		
法人名	医療法人 交雄会		
事業所名	グループホーム桜香		
所在地	伊達市館山町36-5		
自己評価作成日	平成31年2月12日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0193700051-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マルシェ研究所
所在地	札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成31年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康で安心して過ごせる環境づくりは当然のことでも、そこに生き甲斐や楽しみが無くては生きていくとは言えない。認知症を苦にせず楽しく活き活きと過ごして頂ける様努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム桜香は、職員の7割が介護福祉士の資格者で継続的な学びの機会を持ち、専門性のあるケアを実践しています。利用者中心の姿勢は一貫しており、生活の中での役割作りや、地震の避難訓練のため入居者と職員分の防空頭巾を作成したり、地域の文化祭では主催団体からマンツーマンで利用者のサポートをお願いするなど、一人ひとりの利用者が主役となった生活を実現しています。また、利用者とその家族だけではなく、退所者の家族支援を行うなど、地域の高齢者に対して事業所の専門性を発揮し、支援の輪を広げています。事業所では、医療法人が運営法人のため、系列施設との連携もあります。職員の研修や、行事の際の系列施設からのボランティアの応援、医療的なアドバイスなどがあります。また、地域とのネットワーク作りにも積極的に取り組み、幼稚園や近隣地域の催し、花が咲き誇る庭を丹精しているご家庭への訪問など、枚挙にいとまがありません。利用者の、地域の中で新しい馴染みの関係を作る努力や、地域と接点作りなど利用者を中心にした活動に積極的に取り組んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

平成30年度 株式会社マルシェ研究所

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「活き活きと生きる」を事業所職員、入居者、ご家族で共有するため、パネル化して玄関スペース・1階フロア・2階フロアに掲示し、実践に結び付けるよう努めている。入居者、ご家族も目にとめて下さっている。	基本理念とケア理念に沿って、日々のケアで実践するための目標を定め、事業所内に掲示しています。事業所の利用者だけでなく、職員、家族が共に活き活きとした毎日を送れるよう、会議でも繰り返し共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園と、年間行事予定を共有している。おてつだいできることや、参加可能な行事についてはお互いに検討し交流を持っている。地域の方々には、避難訓練を支援していただき、夏祭りに招待させて頂いている。	町内会に加入しています。地域の催しの情報は自治会の回覧などからも収集し、利用者の希望に合わせて参加できるように取り組んでいます。避難訓練や事業所の行事に地域住民の参加もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議へのお誘いは毎月行っており、ご家族が前もって日程調整しやすいように、年間行事計画にも盛り込んでいるが、遠方の御家族が多く参加数が伸びないので、会議以外の方法でコミュニケーションを図っている。	年6回定期的に開催しています。事業所の現状報告だけでなく、提案された改善点を運営に反映するなど、双方向の会議となっています。家族に議事録を送付し、会議の内容を伝えています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険係り、担当者さまが運営推進委員として会議に参加され、ご指導ご助言下さっている。夏祭りなどの行事にも参加していただいている。	行政の担当者が運営推進会議や事業所の行事への参加を通じ、事業所の利用者の様子や運営について実際の状況を把握しています。事業所の疑問点や問題点の解決への助言などを受けています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所会議において、虐待や身体拘束についてのアンケート調査や勉強会を行い、フロア玄関は開錠し、夜間のみ施錠としている。	身体拘束や虐待について、声掛けやグレーゾーンの対応について事業所内で研修を行い、防止に努めています。平成30年の運営基準の変更に合わせ、虐待・身体拘束委員会を設置しています。同法人他施設の冊子を共有し、研修の一環として職員の自己評価を活用し、職員が自発的に気付けるように工夫しています。	「身体的拘束等の適正化のための指針」の策定を行い、職員と共有することが期待されます。また、委員会を3カ月おきに定期実施し、職員の知識と理解を深めていくなど、取組を強化していくことが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	どんなことが虐待にあたるかなど、職員の自己評価表に盛り込んで、職員が虐待を認識できるように、職員同士が気付き改善できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用することになった入居者が1名。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に沿って説明している。質問には丁寧に答えて、安心して入居していただけるよう配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議でのご意見やご希望はもとより、日頃の何気ない会話での要望にも応えるよう努めている。訪問看護師への情報も伝わりやすい環境にしている。	利用者や家族が意見を伝えやすい環境づくりに努めています。災害対応に係る居室移動など、具体的な項目で意見を聴取する機会を設けています。普段からの意見や要望に関しての事業所からの問いかけに対し、家族は意見や要望を表明しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1～2度程度、必要があれば何度でも職員の個別面談を行い、その機会に意見や提案を聞いている。	職員の個人面談があり、意見を表明することができます。会議の場でも意見を求め、業務手順の見直しなど運営に反映された例もあります。働きやすさにつながる業務効率化などの改善提案は、申送りなどで職員間で共有し、実践に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、年に何度か現場に顔をだして職員を労い担当者を通して、処遇の改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの力量と、入居されている方々の現在の状況を把握し、その時に必要と思われる内容の研修の機会を確保したり、現場での技術の習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業者とは、運営推進会議や避難訓練で職員の相互の参加を行い、施設環境やケアの向上に役立てている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みのあと、入居が可能になった段階でご本人に面談させて頂き、ご本人の希望や不安に思う事を伺っている。ホームでの生活を具体的にお話し不安解消していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時や契約時に、ご家族のご希望や思いを伺っている。相談しやすい関係づくりに配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人がホーム入所に適しているかどうか、介護予防やその人らしく生きることが出来るかどうか見極め、必要があれば他施設や事業所を紹介するなど、制度の説明も含めて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	些細な事でも役割を持って頂くことが生きがいに繋がる、声掛けし一緒に行っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の問題をご家族と共有し、相談したり役割分担したりしながら支援している。ご家族との絆が薄れないよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的にお墓詣りにお連れしたり、お孫さんの職場を訪問したり、自宅の庭の花を見にお連れしたり、懐かしい場所にドライブにお連れするなど個別支援に努めている。	家族と協力し、畑作業や、隣町の文化祭に出掛けるなど、利用者の縁のある場所に個別に出掛けている。受け入れが可能な場合は他の利用者も共に出掛け、ドライブや気晴らし、地域での交流の機会としています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他ユニットに話の合う人がいるので、日常にお連れしている。一緒にゲームしていただいたり、関係づくりに配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族も高齢者である場合には特に、社会性を補ったり間に立つことで病院などとの関係がスムーズであるよう支援している。支援続け、再入居されたケースもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活様式などを大切に、量を導入したりなど意向に沿うよう努めているが、衛生面や口腔ケアなどは、説明し納得の上行っている。	日々のケアの中で、利用者の意向や要望を把握することに努めています。意思の表明が難しい利用者は、職員間で利用者本位となるよう対応を検討し、実践しています。夕暮れ時に家に帰りたくなる場合には、本人が不安な気持ちを受け止め、その時不安に思っている内容に対し、安心できる声掛けを職員が共有して支援に当たっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴に特に注目している。本人から要望などなくとも、これまでの生きてきたことから想像できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の時間の使い方は、なるべくご本人本位に努め、個々の個性を大切にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に、計画作成担当者、管理者、ご家族、ご本人が話し合った内容をもとに介護計画を作成し、定期的な評価の結果によっては関係者が話し合いをもって意見を出し合ってより良いケアを検討している。	介護計画は3ヵ月、6ヵ月ごとに見直し、必要があれば随時変更しています。利用者ごとに担当職員が決まっていますが、個別支援の内容がわかる記録を職員全員で共有し、モニタリング、アセスメントを行っています。モニタリングの精度を高めるために、各利用者の計画を職員が一覧できる形式にするなど、よりきめこまかな計画となるよう書式の検討などを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に詳細を記録している。必要なことは朝と夕に申し送られ、検討結果を確実に実践できる様申し送りノートの利用も生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族の高齢化による生活の変化に合わせた対応、入居者の高齢化による動作制限などに対応した行事計画など、小規模の特典を生かした取り組みをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域には幼稚園があり、年間行事計画を共有し交流している。避難訓練はご近所の方数名が協力くださり、夏祭りにも参加して頂き、顔なじみの関係づくりに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長年診ていただいている医師を大切に、継続して受診できる様支援している。医師や看護師とは適切に連携し関係づくりに努めている。	本人、家族の希望する病院を受診することができます。利用者は家族や職員同行で通院しています。看護師の訪問時に、生活状況に応じた支援のアドバイスや減薬の可能性など幅広く相談を行っており、医師への情報提供を的確に行えるようにしています。受診結果は電話や手紙で家族に伝えていきます。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護で、入居者の健康状態を伝えている。必要があれば、随時連絡し指示を仰いでいる。細やかな対応で、職員も信頼している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入退院や、重大な疾患となった場合など状況を関係機関に伝えて、困ったことなども相談している。こちらでできることもさせて頂き、退院などはスムーズであるよう連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	看取りのシステムがないので、契約時に説明している。日常的な医療処置が必要になったり、食事摂取困難になった場合には病院に入院していただくことなど、具体的に説明している。	医療法人が母体のため、終末期には入院を希望する利用者や家族も多い状況です。病院へ移る時期などは、医師や家族等と相談しながら見極めを行っています。看護師の24時間オンコールでの対応や、重度化に対する指針を作成し、同意を得ています。職員の研修の実施など、利用者の重度化や終末期におけるケアの準備を進めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は受講しているが、定期的に行っていないのは今後の課題である。緊急時は、待機の看護師、フロアリーダー、管理者など連絡網により指示仰ぎ対応するマニュアルがある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練にはご近所数名の方々にご協力いただき、なじみの関係をつくっている。火災以外は、災害のリスク低く、あわてなくて済むような準備が重要としている。月に一度、防火チェックを行っている。	地域や近隣のグループホームからの訓練参加があり、協力体制や助言を受けています。夜間の想定で避難訓練を行っており、運営推進会議でも議論を重ねています。特に火災時の2階からの避難について、家族とも個別に相談を行っています。自然災害の危険性が少ない地域ですが、備品と備蓄の準備があります。	冬季の災害に備え、ポータブルストーブや灯油の備蓄をしていますが、9月の震災の経験を踏まえよりきめ細かな備えを行う予定となっています。応急手当のセットや設備の提供も可能であることから、災害時の地域との連携についても支え合いの関係を深めていくことが期待されます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄関係のケアや周辺症状への対応時は、他者に知れないように配慮している。名前を出せない職員間の申し送りのため、実名以外の命名がある。	排泄時の声掛けなど、利用者の尊厳を損なわないように配慮しています。職員の行動や態度に問題があるときは、個別に指導するほか、個人面談の自己評価表を活用し、職員の自発的な気付きを促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の希望や思いを表出するのが困難な入居者さんに関しては、ご家族に相談したり選択肢を用意して選んで頂くなど工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員は決められた一日の仕事の時間や内容などを適宜に変更し、入居者の意向に沿うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに合わせた衣類の加工、お気に入りの衣類や色柄を御家族にも協力頂き、大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者、職員は昼食を共にすることで、食事を楽しんでいる。季節や行事にあわせたメニューを工夫している。外食が困難になってきたので、ランチバイキングを定期的にし、好みで食していただいている。	気分を変えてもらうよう、食器を新しく入れ替えています。ランチバイキングを催したり、外食の際も、職員が打ち合わせを行い利用者の楽しい気を盛り上げるよう取り組んでいます。栄養士が毎月献立をチェックし、栄養バランスと利用者の要望を踏まえて職員が調理を行っています。利用者には茶碗の拭き上げなど、できることに役割を持って参加しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士にメニューチェックしてもらっている。水分量は毎日の合計を職員が共有し、過不足無いよう管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアに関する研修を可能な限り受講し、より良い口腔内環境に努めている。訪問歯科診療との連携で、まめに治療を受けてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	たとえ汚染してしまっている、トイレに出来る限り誘導している。自立に向けて、ポータブルトイレの利用や、防水シーツの使用などここに合わせた支援を行っている。	利用者ごとに、排泄や水分摂取、バイタルなどを含めた24時間の生活リズムの把握に努めています。声掛けも利用者の羞恥心に配慮しています。歩行状態など、総合的に検討し、夜間のポータブルトイレの活用などを行いトイレでの排泄の支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤などの使用は出来る限りせず、ヨーグルト・オリゴ糖・プルーンなどの利用や、水分や根菜の摂取量に配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴日はあらかじめ決めているが、拒否あった場合は強要せず、時間をずらしたり曜日をずらしたり、出来る限り本人に合している。	週二回の入浴を基本としています。利用者の健康状態を見極めたうえで、対応しています。循環器疾患への配慮や、湯の温度の希望など、個別の状態や気分などにも配慮しています。入浴拒否の利用者にも、湯に浸かって気持ちよい気分になってもらえるよう職員が工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングの賑やかな場所で居眠りするひと、居室でしっかり昼寝するひと、居室のソファでうとうとするひと、夜間何度も起きてくる人、自由にいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要が無いと思われる効精神薬などは、本人と相談し医師に伝えている。本人がどういう薬を飲んでいるか、説明したり、飲みやすい工夫をしている。薬効に関しては、訪問看護と常に話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	仕事をしていたい人、のんびりテレビを見ていたい人、なんらかの勉強や認知症予防をしたいひと、ゲームやカルタを楽しみたい人、出来る限り対応するよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天時、状況の許す限りドライブを行っている。お墓参りやイベント見学、出先で危険が無いよう付き添ってくれる人々とも顔なじみになってきた。いつでも庭にでて外の空気が吸える状況があればもっといいが、転倒や行方不明のリスクが高く実行できずにいる。	天気や利用者の体調の良いときには、ドライブに出かけたり、受診の帰りに自宅訪問をしたりしています。家族も高齢化している状況があり、可能な限り調整して、車いすの利用者が家族と一緒に外出する際には、事業所の車を使うなど、利用者が外出できるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは金銭を所持している入居者はいない。ご家族からもしまのところ要望がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯の発信、電話の呼び出しなど希望に応えている。年賀状の代筆など希望があれば対応したい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけは欠かさず行っている。トイレや浴室は清潔を常に心がけている。台所や布巾は毎日除菌する日課となっている。毎朝、入居者とともに掃除や除菌を行っている。テレビ前のスペースにソファをひとつ追加し、みんなで集えるよう配慮している。	利用者が自分の気に入った居場所を持てるよう、椅子やソファの位置を工夫しています。また、畳のスペースもあり、洗濯物を畳んだりするときに活用しています。湿度の維持に注意し、感染症対策に努めています。利用者に季節感を感じてもらうため、行事や節句の飾り付けを行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、それぞれの場所が決まっている他に、ソファや畳スペースがあり思い思いの場所で過ごせるよう、また自分から発動しない方には、声掛け誘導などもしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご家族になじみの家具や趣味の道具や作品など自由に持ち込んでいただくよう声かけしている。その為にはホームから車を出して家具の搬入などお手伝いをするが、生活歴を反映したような品の持ち込みが殆どないのが現状。	家族の写真や自分の趣味の作品などを置き、自分の居室であることを感じ取れるように配慮しています。入居前から、認知症の人にとっていつも使っていたものが身近にある暮らしの大切さを伝え、家族にも理解を促しています。馴染みの家具などがない場合は、新品にこだわらず、本人が使いやすいものや、生活感のあるものを用意しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には配慮した環境になっているが、自立に配慮した環境にはまだまだ行き届いていないと感じる。		